



東京都立南大沢学園



堀内省剛校長

特別支援学校が取り組む 生徒の「QOL向上」をめざした 金融教育&継続教育とは？

「金融教育」は社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、特別支援学校の東京都立南大沢学園で校長を務める堀内省剛先生を取材しました。高い就職率を誇る南大沢学園では、在校中はもちろん卒業後も、生徒のQOL（生活の質）を向上させるために、教科間の連携で構築した金融教育と卒業生への継続教育を展開し、社会生活での自立を促しています。



よりよい人生を送るために
生徒の「自己効力感」を高める

特別支援学校とは、心身に障害のある児童や生徒が通う学校であり、南大沢学園は、軽度の知的障害のある生徒たちが通う高等部の学校（一般的な高等学校に相当）です。職業教育に重点を置いた「就業技術科」のみを設置する都内唯一の学校として、2010年に創立されました。1学年100名定員で、卒業後に就職を志望する生徒たちが都内全域から通学しています。

南大沢学園がめざすのは、生徒の在学中はもちろん、卒業後の生活の質（以下、QOL）を向上させるための教育の充実です。そのために、卒業後に働くうえで必



学校運営連絡協議会委員も取材に同席。弁護士の関哉直人さん。

要とされる基本的な知識、技能、態度を学び、変化する社会で自立し、主体的に生きる力を養う教育を、さまざまな取組みを通じて実践しています。

まず、専門的な職業能力を育成する「職業に関する教科」では五つのコース（ロジスティクス、食品、ビルクリーニング、福祉、エコロジーサービス）が設定されています。1年生ですべてのコースを体験し、希望や適性に合わせてコースを選択。2年生、3年生では専門的な実習や就業体験を通じて、働くうえで必要な知識や技術を学んでいくのです。

また、職場や社会生活における基礎と基本的なルールやマナーを身に付けることも重視し、「南大沢スタンダード」という指標を導入しました。学習、生活、進路、安全といった各シーンにおいて徹底すべき心得を明文化し、生徒、教員、保護者で共通理解を図り、日々の学校生活の中で



3年生の「職業」の授業風景。2クラス20名で行う。今回はキャッシュレス決済の授業を、プロジェクターを使って進める。

実践しています。

「南大沢スタンダードは生きるための手がかりです。決められたルールをただ守るのではなく、生徒自身がその必要性を考えることが重要であり、そのために、ルールを定めた理由も記載しています。業態や職種によっても、適用されるルールは異なり、それぞれに理由があります。ルールが必要な理由を考えることができれば、卒業後に社会で遭遇するさまざまな状況に、柔軟に対応できるようになるのです」。

保護者や地域の方々などが参加して意見交換を行い、その結果を学校運営に反映する「学校運営連絡協議会（以下、協議会）」において、南大沢学園では、卒業生が委員として参加しています。これもQOL向上の取組みの一つであり、他校では類を見ないとのこと。実際に社会生活を行っている卒業生の意見は、さまざまな改善につながっています。

こういった取組みの成果によって、卒業生の就職率は約95%（2018年度実績）にも達しますが、堀内校長はこう語ります。

「南大沢学園の教育の主眼は就職だけではなく、学びのプロセスを通じて生徒たちがQOLを高めることです。そのために、『自分ならできる』と自己を信頼する力、つまり自己効力感を身に付けることが必要なのです。特別支援学校の卒業生が、社会に出てつまづいてしまう大きな要因は、『自分はダメだ』というあきらめの

気持ちです。困難に遭遇しても、どうにかできると自分を信じる力こそが、自立するうえで重要です。目標に向かって、日々の学校生活のなかでコツコツと努力する。ときには失敗しながらも、努力の積み重ねで得られる達成感こそが、社会での困難を乗り越える力になるのです」。

協議会の委員である藤堂貴代美就労支援アドバイザーは、こう指摘します。

「南大沢学園には、過去の失敗経験による劣等感を抱いたまま入学してくる生徒も多く、失敗に臆病な傾向が見られます。しかし、南大沢学園での3年間で挑戦を繰り返していくうちに変化が表れてくるのです。安心して挑戦と失敗ができる場があることが、生徒たちの自己効力感を確実に高めています。その結果が、高い就職率にもつながっているのではないのでしょうか」。

消費者トラブルに備える 新たな金融教育カリキュラム

南大沢学園において金融教育は、非常に重要な位置付けとなっています。

「社会は今、急激に変化しています。金融教育の範囲も劇的に広がっており、従来の教育では対応し切れません。しかし、QOLの面で、お金に関わる部分はきわめて多いため、金融教育は絶対に不可欠なのです」。

知的障害のある人は、在校時、卒業後を問わず、消費者トラブルなどに巻き込

まれやすい傾向にあります。とくに卒業後、悪質商法で大金を支払わされたり、第三者にいわゆるままに社員証を貸してしまい、消費者金融で借金をされたりするなどといったケースも少なくありません。協議会の委員である関根直人弁護士はこう指摘します。

「知的障害のある方々が卒業後、消費者トラブルにあいやすい理由の一つに、在学中は保護者が必要以上にお金の管理をしてくれていたため、お金を扱う機会が少なく、金銭感覚が身に付かないまま社会に出てしまうということが考えられます。また、お金の関心も低いため、だまされたことに気づきにくい傾向もあり、被害額が数百万円といった高額になってしまう場合があります。社会に出たら自分のお金は自

分で管理するという前提に立って、学校と家庭で連携してしっかりと教育していくことが重要です」。

さらに、2022年4月から成年年齢が引き下げられることにより、消費者トラブルに巻き込まれるリスクがより一層高まる予想されます。生徒たちが抱えるこういったリスクを踏まえて、南大沢学園では2019年度の金融教育のカリキュラムを抜本的に見直しました。

南大沢学園では、家庭科と社会科の中で、卒業後の人生とお金の使い方（生活設計）、年金や健康保険などの社会保障、社会人として支払う義務のある税金などを学びます。また、特別支援学校の高等部には、職業生活に必要な知識を学ぶ「職業」という教科があり、ここでも給与明

細の見方などお金に関して学ぶ授業があります。こういったカリキュラムの見直しとして、複数の教科にまたがる金融教育を別々に教えるのではなく、教科間で連携することを開始しました。例えば、契約書をきちんと読めるように、国語科の授業とも連携を図ります。現実的な状況を想定した金融教育を学ぶことは、卒業後の人生に必ず役立つはずと、堀内校長は確信しています。

アクティブ・ラーニングで学ぶ 活発な授業風景

2019年度、金融教育の一環として「職業」の授業に、「キャッシュレス決済のメリット・デメリットを知り、自分で稼いだ給料を賢く使う」という3年生対象の単元が、新たに設けられました。施行されたばかりの消費税率の引上げとキャッシュレス決済によるポイント還元制度に関する内容を学びます（図表）参照。

授業では消費税率が8%から10%へ引き上げられたことを説明するとともに、具体的な税額の変化を、実際に計算しながら実感していきます。その差額を理解したうえで、キャッシュレス決済の種類、メリットやデメリットを学んでいきます。

「知的障害のある生徒は、単に授業を聞くだけでなく、活動をしながら学ぶことで、学習効果が上がります。担当教員は、生徒たちにテキストを読ませるだけでなく、問い掛けや話し合いを重視する能動的な

学習方法（アクティブ・ラーニング）を織り込みながら、授業を進めていきます」。

授業中、担当教員がテキストに登場する用語などいろいろと質問をすると、多くの生徒たちが挙手をして答えようとする様子が見られました。

「3年生になると就職活動が本格化し、給与といったお金の話と生活の関連をより実感し始めます。社会に出て自分でお金を稼ぎ、使うようになる時期が目の前に迫っているので、お金に関する授業への関心はとても高いですね」と堀内校長は語ります。

授業で印象的だったのは、教員がテキストの内容を説明し、生徒たちに学習させるだけでなく、リスクについての具体的なアドバイスを行っている点です。例えば、キャッシュレス決済の一つであるクレジットカードについては、後払い方式であることを説明したうえで「借金」という面を強調。消費者トラブルに巻き込まれる卒業生がいる実態を踏まえて、お金に関するリスクについては、はっきりと印象に残る言葉や例えを使ってアドバイスするのです。

「キャッシュレス決済の内容を扱う職業の授業は、進路指導の教員が担当しており、現状と将来を考慮した具体的なアドバイスをするようにしています」。

キャッシュレス決済の授業は、社会環境の変化に応じて設けられましたが、授業内容の組立ては、試行錯誤の連続だといいます。障害の度合いによっても理解度に差が

【図表】今回の授業で使用した教材

ワークシートでは、消費税の引上げ前と後でどれくらい税額が違つかを計算する。

3年 職業「金融教育」ワークシート

キャッシュレス決済のメリット・デメリットを知り、自分で稼いだ給料を賢く使う

氏名() 月() 日()

●エントリースーツ 消費税率について考えてみよう！

1 消費税率が8%→10%になったら、いくら負担が増えたの？空欄を埋めてみよう！

【消費税率を求める計算式】

8%の税金＝商品の金額×0.08

10%の税金＝商品の金額×0.1

品名	商品の金額(円)	税込8%(円)【A】	税込10%(円)【B】	増税後に増えた税金の額(円)【B-A】
1	1,000	1,080	1,100	20
2	2,000		2,200	40
3	5,000	5,400	5,500	
4	10,000		11,000	
5	20,000	21,600		400
6	30,000	32,400	33,000	
7	100,000	108,000		2,000

キャッシュレス決済の
メリット・デメリットを知り、
自分で稼いだ給料を賢く使う

高3職業「金融教育」

キャッシュレス決済の
メリット・デメリットを知り、
自分で稼いだ給料を賢く使う

(1) 障害のある生徒は、単に授業を聞くだけでなく、活動をしながら学ぶことで、学習効果が上がります。担当教員は、生徒たちにテキストを読ませるだけでなく、問い掛けや話し合いを重視する能動的な

(2) お金を使っている感覚が薄まる。手元に現金がなくても支払いの感覚がつかない。

(3) 使えるのは加盟店のみ、現金がなくても支払いができません。

授業では、キャッシュレス決済ポイント還元制度について経済産業省が消費者向けに配布している資料を活用。



「職業」の授業を担当する松本洋一先生は、進路指導も担当しており、現状と将来を考慮したお金に関する具体的なアドバイスも行つ。



先生の授業を聞きながら、用語についてワークシートに記入する生徒。手を動かして書いていくことも、知識の定着には重要。



身近なお金の話題を扱う金融教育は、生徒の関心が高い。松本先生の問い掛けに、生徒たちは積極的の手を挙げて答える。



生徒たちを回って、ヒントを出しながら自分で考えることを促す松本先生。

生じるなど、一律の授業では生徒全員に内容が伝え切れないという難しさもあります。各教員は、生徒の様子や授業後のアンケート、ほかの教員の助言を取り入れるなど、授業内容や指導方法の改善を日々図っています。

継続教育で得た卒業生の課題を在校生が学ぶべき内容に反映

南大沢学園では2019年度より、継続教育という仕組みを作り、卒業生を対象とした「社会人キャリアアップ講座」を開講。卒業後3年間にわたり、年に6回、南大沢学園で社会人として必要な知識やスキルを学べます。堀内校長は、生徒たちが卒業後も金融教育を学び続ける重要性について強調します。

「3年間で学べる内容は限られていますし、経験が少ないので実感も得にくいと思います。しかし、卒業して実際に社会の中で生活すると、『学校で学んだことはこういう意味だったんだ』と納得できるようにになります。卒業後の数年間は、学校で学んだ知識がスキルに転換していく時期。だからこそ、この時期に学べる環境を用意し、学校が関わり続けることが重要です」。

第1回のテーマは「社会人1年生のための人生を助けるお金のしくみ」。2018年度の卒業生を対象とし、社会保険労務士を講師に招いて、初めて受け取った自分の給与明細を見ながら、厚生年金保険、

所得税、健康保険などについて学びました。参加者は約30人で、卒業生の約3割。これまでの講座では、金融教育のほかに英会話やアンガーマネジメント（怒りの予防と制御）といった、社会生活に身近なテーマが取り上げられています。

継続教育は、教員にとっても卒業生が社会で直面するさまざまな課題を理解する、大きな学びの場になります。

「南大沢学園の教育の目的は、在校中はもちろん卒業後のQOLを向上させることです。ですから、卒業生の声にこそ、在校生に実施するべき教育のヒントがあります」と堀内校長。

「変化の激しい世の中となり、10年後はどのような社会になっているか予測できません。そんな社会に生徒たちを送り出すのですから、教育も大きく変わらなければなりません。だからこそ、卒業生の実際の生活から、教員はさまざまな教育の課題を学び、考え続けることが大切。教育に正解はありません。先入観で現状にとらわれず、改善し続けていくことが重要です」。

進化を続ける南大沢学園の金融教育。今後は、卒業生対象の継続教育について3年間にわたるプログラムを構築していきます、そこで得られた卒業生の経験を、在校生の金融教育に反映していきます。南大沢学園では、在校生と卒業生の学びが循環する教育を通じて、さらなるQOL向上に挑戦していくのです。